

◎ のへじ 議会だより



建設産業常任委員会によるホタテへい死実態調査

9月定例会

平成21年度決算認定	2
一般質問	4
委員会報告	10
輝け！のへじびと	12

平成21年度一般会計決算 黒字決算を認定

平成二十二年度第三回九月定例会は、九月十三日から十六日までの四日間の会期で行われました。

町長から、報告一件、平成二十一年度各会計決算認定九件、補正予算案五件、条例規約変更一件、人事案件一件が提出され、それぞれ原案どおり、全会一致で認定、可決、同意しました。

なお、九月十四日に開催された一般質問は、四ページから九ページに掲載しています。

各会計の歳入歳出決算状況

会 計	歳 入	歳 出	歳入歳出差引額	
一 般 会 計	59億5,421万円	59億1,203万5千円	4,217万4千円	
特 別 会 計	国民健康保険事業	21億133万6千円	19億537万円	1億9,596万5千円
	老人保健	100万3千円	100万3千円	0円
	後期高齢者医療	2億7,765万8千円	2億7,537万6千円	228万2千円
	介護保険事業	13億6,516万円	13億1,018万4千円	5,497万6千円
	介護サービス事業	1,433万2千円	1,197万3千円	235万8千円
	下水道事業	2,105万6千円	2,105万2千円	4千円
	水道事業	2億8,053万6千円	2億7,203万円	850万6千円
○収益的収入及び支出	4,680万円	1億2,878万2千円	※△8,198万2千円	
○資本的収入及び支出				

※資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額8,198万2千余円は過年度分損益勘定留保資金及び当年度消費税額及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしました。

健全化判断比率と 資金不足比率

地方公共団体の財政健全化に関する法律で全国一律の指標に町の会計を比べてみました。

○実質赤字比率

国の示した基準は15%
普通会計が黒字のため、赤字比率は発生しておりません。

○連結実質赤字比率

国の示した基準は20%
連結の実質収支が黒字のため赤字比率は発生しておりません。

○実質公債費比率

国の示した基準は25%
全会計のほか一部事務組合も含まれ10%です。

○将来負担比率

国の示した基準は350%
全会計のほか一部事務組合、地方公社も含まれ110.3%です。

いずれの指標も健全化判断比率は、国の示した早期健全化基準を下回っております。

平成21年度はこのような事業を行いました。

防災行政無線工事費	1億5,123万円	行在所改修事業費	325万円
バス路線維持対策費	952万円	地デジ移行助成金	1,135万円
防水ハザードマップ作成費	197万円	保険基盤安定繰出金	8,379万円
医療療養給付費繰出金	1億1,856万円	介護給付費	2億3,133万円
更生医療給付費	2,781万円	介護給付費繰出金	1億5,517万円
家庭ごみ収集業務	3,096万円	浄化槽整備事業費	327万円
森林センター塗装工事設計業務	53万円	漁協荷捌き施設補助金	5,616万円
けつめい茶研究開発事業	537万円	常夜燈フェスタ補助金	150万円
町道環境整備事業	408万円	道路新設改良工事費	1億9,759万円
除排雪作業費	4,945万円	小学校耐震診断業務	745万円

平成二十二年度 補正予算の 中身は？

○一般会計

- ・船橋・雑吉沢テレビ
共同受信組合補助金
六七四万円
- ・船橋・雑吉沢地区の
地上デジタルテレビ放
送の難視を解消するた
め、共同受信組合が整
備するテレビ共同受信
施設に対する補助金
- ・介護給付費繰出金
六三〇万円
- ・介護給付費及び地域
支援事業を行うための
国の事業での町の負担
分
- ・新型インフルエンザ
予防接種事業
六九四万円
- ・新型インフルエンザ
予防接種で低所得者へ
の補助する国の事業で
の町の負担分

・ナマコ漁場造成事業 費 一五〇万円

ホタテに代わる第2
のブランド作りのため
の漁場整備事業の県事
業での町負担分です。

・鉄道防雪林PR用 看板設置工事 四〇九万円

野辺地駅構内にある
日本最古の鉄道防雪林
を、電車内の乗客にP
Rする看板設置工事

・駅前街路樹イルミ ネーションライト 装飾工事 一八二万円

東北新幹線全線開業
に合わせ、観光PRセ
ンター前の街路樹にL
EDライトの装飾をす
るものです。

・クロスカントリー 用具購入事業 二〇五万円

小学校低学年保護者
から要望のあったス
キー用具購入時の負担
の軽減を図る目的で予
算措置したものです。

野辺地町教育委員会委 員の任命の件 全員賛成同意

欠員となっている町
教育委員会委員の残任
期間が平成二十二年九
月三十日までとなつて
おり、新たに十月一日
から黒木庸子氏を教育
委員会委員に任命する
ことに同意しました。



黒木 庸子氏

《黒木庸子氏略歴》

昭和26年4月10日生
昭和50年3月
国立音楽大学音楽学
部音楽学科卒業
昭和50年4月
中央信託銀行入社
昭和52年12月
中央信託銀行退社
昭和53年1月
ピアノ声楽講師
昭和54年3月
ピアノ声楽講師終了
平成2年1月
日本生命保険相互会
社渋谷営業所入社
平成14年10月
日本生命保険相互会
社野辺地営業部転勤

安定所跡地、工業団地、野辺地病院の現状は？

岡山 義廣 議員



職業安定所跡地を区画売却しては？

岡山議員

職業安定所跡地の売却については、一括の売却ではなく、分割して区画売却で公募してはどうか伺います。

売却計画の見直しを検討する

亀田町長

職業安定所跡地の売却については、一括での売却計画を優先させて進めてきましたが、残念ながら今日まで売却は実現していません。

今後は、商業形態の変化や地価変動なども踏まえて、売却計画の抜本的な見直しの必要性を痛感しています。その中で、区画した場合に、道路の建設費など検討すべき事項はいくつかありますが、宅地として区画し売却するのも一つの方法ではないかと考え、今後検討していきたいと思っております。

工業団地の企業誘致の状況は？

岡山議員

野辺地町工業団地企業誘致の状況を説明していただきたい。

今後も積極的に推進していく

亀田町長

野辺地町工業団地には、農事組合法人田子なめこ農場が平成20年に事業所開設計画書を町に提出し、工場の立地を正式に表明したため、昨年議会への説明後、県を含めた三者で協議を進めてきましたが、先般9月2日に、断念したい旨の申し出があり、9月7日付で事業開設計画の取り下げ書が町に提出されました。誠に残念に思っています。

また、株式会社斉藤工機についても、いまだに立地の見通しが立たないと報告を受けています。最近の企業誘致をめぐ

る環境は、継続する経済不況に加え、昨今の円高により、依然として厳しいものがあります。野辺地工業団地については、町のホームページでも宣伝していますが、立地企業への電気料金の割引など原子力施設周辺の町ならではの優遇制度などもPRし、今後とも県と歩調を合わせて継続して積極的に企業誘致を推進していきたいと考えています。

野辺地病院の経営について

岡山議員

野辺地病院経営は、危機的な状況下にあると思うが、経営健全化改善計画策定委員会を設置し、二〇一四年までの5力年で解消したいとしているが、資金不足は明らかで、早急な手立てが必要で、野辺地町一般会計予算から緊急分担保金として繰り出しする考えがあるのか伺います。

構成町村と協議する

亀田町長

公立野辺地病院は、慢性的な医師不足等により、収支が悪化して、7月末に病院長を委員長とした公立野辺地病院経営改善計画策定委員会を発足し、今後外部監査を実施するなど、最終的な計画を策

定することにしてはいますが、病院の自助努力だけでは限界があり、構成町村からの繰り出し支援は避けられないと思っております。そのためには、構成町村の首長及び議会と協議した上で合意を取りつける必要があるのですが、今後も議員の皆様と十分議論を重ねながら対応していく所存です。



経営改善を進めている野辺地病院

町の活性化事業 国保人間ドックについて問う

古林 輝信 議員



カワラケツメイ研究 開発事業について

古林議員

研究開発事業の現状と特産品として町がどう支援するのか。

のへじ祇園まつり期間中に実施したけつめい茶関連商品に対する町民の声や感想及び販売数量について、また、町の特産品・土産品としての情報発信が必要と思うが町長の考えを伺います。

普及宣伝に 力を注ぐ

亀田町長

今年、原料確保のための栽培と昨年収穫したカワラケツメイを青森県産業技術センターに依頼し、濃縮液の抽出試験や栄養分析など調査研究を行い、町も、観光協会と連携を図り、必要な支援に取り組み考えます。のへじ祇園まつり期間中の町民の感想等は聞き取り調査等をして

いないのでわかりませんが、販売数量は、カワラケツメイアイス等合計で351点です。

なお、町の特産品として町内外に情報発信するのは大変重要ですので、色々なマスメディアを駆使し、普及宣伝に力を注ぎたいと考えています。



は種作業を行う職員

空き店舗対策事業の 取り組みは？

古林議員

2年目を迎えたまんが図書館、今年度スタートした元気のへじプラザの利用状況と他町村の利用者数を伺います。

今後、共同駐車場の設営等も必要と思うが、取り組みの考え方を伺います。

継続して 取り組んでいく

亀田町長

両施設は5月にオープンし、8月末までの利用状況は、まんが図書館が延べ一〇七一人、閉館日を除く1日当たりの平均利用者数は約12人、元気のへじプラザは、延べ一九四〇人、閉館日を除く1日当たりの利用者数は約21人で、他町村の利用者数は把握していません。

国の補助金終了後の24年度以降の取り組みは、ある程度継続の必要があると考えています。実施主体の商工会と、十分協議する必要があるが、国の補助が困難な場合、町単独で財源を捻出して、取り組みたいと考えています。

国保人間ドック の復活について

古林議員

平成20年度の特定健

診制度発足から、国保人間ドックを実施していないが制度的に実施できないのか、町の方針で対象町民を特定健診制度に移行させるのか。法的に制度がなく、町国保だけの方針であれば、今後、国保人間ドックを復活する考えがあるのか伺います。

受診率の推移を みた上で検討する

亀田町長

平成20年度から国民健康保険法において特定健診の実施が義務づけられ、人間ドック事業を廃止しました。

これは、特定健診の内容と町で実施する各種がん検診等の受診で人間ドックと同様の結果が得られると判断したもので、ぜひ受診していただきたい。

人間ドックの復活は、今後の受診率の推移を見て、国保運営協議会等と協議検討したいと思えます。

脳ドックの受診 枠拡大を望む

古林議員

過去3年間の脳ドック受診者の実態、また、町では受診枠を設けているのか。それは、国保の財政上の問題か、医療機関の受け入れ態勢の問題なのか。

近年の死亡率が上位で、対応が急を要する脳血管疾患で不安を持っている方が多いと思うので受診枠を拡大していただきたい。

医療機関と 協議する

亀田町長

過去3年間の受診者数は40数名で推移しています。

町では受診枠を設けていますが、これは、財政上の問題ではなく、医療機関の受け入れ制限によるもので、今後、医療機関とも協議し、受診枠拡大につなげたいと考えています。

梅村

毅 議員



青い森鉄道への出資金の増資は？ 野辺地病院の不良債務解消策は？

出資金の増資は 要求されるのか？

梅村議員

国土交通省の来年度の概算要求に並行在来線の支援策が盛り込まれず、12月4日に迫った青い森鉄道の全線開業までに財政支援策がまとまるのは極めて困難な情勢になったと一部新聞紙上で報道されました。

青い森鉄道開業時に当町への出資金の増資が要求されるのか町民へ説明すべきと思うが伺います。

情報収集を 続けていく

亀田町長

既に青い森鉄道は平成22年4月期において約2億5千万円の累積赤字を計上して、青森開業後はさらに赤字額が増加していく見通しです。当初期待されていた並行在来線への国の支援策が来年度予算の概算要求に盛り込ま

れなかったことを受け、当町としては、当面、国の動向及び県の対応を見守りながら、情報収集を続けていきたいと考えています。

いずれにしても、青い森鉄道の経営は、今後一層厳しさを増し、その解決策として、沿線自治体の財政負担を求めるとは決して許されるものではないと思っております。また、平成9年の5月6日付で当時の青森県知事名で野辺地町長あての並行在来線に対する県の対応方針についてという公文書の中に、開通後の運営経費については県が中心となって対応し、沿線市町村に、財政運営に支障を与えないような負担を求めないと明記されています。この県の方針を今後も守ってもらうことはもちろん、機会あるごとに経営改善等について進言し、今後会社の赤字解消策が沿線自治体への財政負担となつて転嫁されないよ

うに強く働きかけていきたいと考えています。

野辺地病院の不良 債務解消策は？

梅村議員

公立野辺地病院を運営する北部上北事務組合に対し、町は病院の事業会計の不良債務を解消する為に応分の負担をする目的で予算化をすると思いますが、当町の財政再建等の見通しについて伺います。

応分の負担は 避けられない

亀田町長

公立野辺地病院は、慢性的な医師不足などにより、収支が悪化しています。平成21年度決算では不良債務が5億8千5百万円、資金不足比率が23・1%になると見込まれており、今後も改善する要素がなく、悪化の一途をたどる可能性が高いと思われ、憂慮してい

ます。このため私は、公立野辺地病院経営改善計画策定委員会を発足させて、この不良債務を平成26年度までに改善するための施策を立案するよう指示しています。現時点で最終的な成案は得ていませんが、病院の自助努力だけでは限界があることから、構成市町村の応分の負担は避けられないと思っております。一方、野辺地町の財政状況でありませんが、本年度の財政調整基金は9月議会の補正予算において7千3百万円を積み立てし、総額を約2億円としました。これは、年度内にも野辺地病院へ不良債務解消に伴う基準外の繰出金の支出を見据えての措置です。

また、今後の財政状況については、平成23年度以降の交付税総額が22年度並みに確保された場合、町の財政見通しでは財政調整基金と公共施設整備基金に毎年1億円の積み立て

を想定し、堅調に推移すると見込んでいますが、これに公立野辺地病院の不良債務に伴う負担が新たに加わった場合、これら基金の積み立てを含め、町の一般会計等に及ぼす影響は極めて大きいものがあります。今後は、従来にも増して事業の取捨選択に努め、基金や地方債の適切な活用を図り、この難局を乗り切らなければならないと思っております。

県の市町村振興課からも、この公立野辺地病院の不良債務解消については、何度も指導を受けていますが、今後とも県及び構成町村を交え、関係者としてしっかりと情報交換をして、拠出金も含めた最良の方策で臨んでいきたいと考えています。

過疎債で行う 事業計画の現状は？

野村 秀雄 議員



過疎債を発行する 事業について

野村議員

平成23年度の予算編成に当たって、過疎債を発行する事業について伺います。

慎重に 決定する

亀田町長

野辺地町は過疎地域自立促進特別措置法という法律に基づきまして、今年の4月1日から過疎地域に指定されました。この法律によると、過疎地域は自立促進方針に基づいて、過疎地域自立促進市町村計画を定めることができるかとされています。過疎計画策定のため、本年4月に課長補佐級12名によるプロジェクトチームを立ち上げ、現在までに117件、事業費規模で約81億円の事業が事務局に提出されています。このうち現在既に実施している事業を除くと、新規事業は80件ほどで、事業費は約44億円に達します。今後は、当初の予定どおり、議会にも中間報告を行い、事業計画についてご意見をいただき、新たに事業計画に反映していきたいと考えており、この時期は概ね10月頃になると思いますが、最終的には議会の議決をいただくこととなります。

策定された計画に搭載された事業は、過疎指定期間の22年度から27年度までの間に全てを実施するということではなく、毎年度の予算編成時に財政状況をしんしゃくしながら事業の取捨選択を行うため、27年度以降に先送りされる事業も出てきます。この過疎債は、交付税に70%が公債費として算入されるとはいえ、当然償還が生じるので、財政全体を見きわめながら、慎重に事業選択と過疎債の配分を決定しなければなりません。

プレミアム商品券 は継続する？

今後の商品券の 発行は？

野村議員

プレミアム商品券は、町等の補助金によって二回発行され、町民、事業者ともに大変喜んでいきます。町の活性化にも大いに役立ったと思います。22年度、23年度も継続する意思があるか、伺います。

実施について 検討する

亀田町長

プレミアム商品券は、平成21年度に地域商店街活性化対策事業、いわゆるプレミアム商品券発行事業を県や国の補助事業を活用して二回実施しました。これは、長引く景気低迷等により町民全体の消費生活にも多大な影響が及んでいることから、プレミアム商品券を発行することにより、消費者の購買力増大や買い物客の町外流出を防いで商店街の活性化を図ることを目的に実施しました。これまでのプレミアム商品券の事業は、一回目は県の支援事業を受け、4百万円、二回目は国の交付金事業を活用して6百万円の補助金をそれぞれ町商工会に交付し、合わせて総額千百万円のプレミアム商品券が発行され、いずれも短期間のうちに完売ということ

で、この事業によって商店街の活性化等に寄与したものと思っております。

平成22年、23年度においても継続するかどうかについては、22年度は厳しい経済財政状況の中であり、しかも事業主体となる町商工会から22年度も実施したいという要望がなかったため、今年度の当初予算には計上していません。今後、商工会等から要望があれば、実施については是非や、実施規模等について検討したいと思っております。

23年度は、今後の予算編成となるので、商工会等から要望があれば検討します。町の商店街の活性化や町民の消費活動の活性化を図ることを考慮し、時には思い切った財政出動も必要と考えますので、今後は町民のご意見を拝聴しながら、関係機関、団体との協議を行います。

スキー場・柴崎牧場の有効活用を提案する

木明 和人議員



スキー場及び柴崎牧場の活用について

木明議員

スキー発祥の地である当町のスキー場をキーワードとしたまちづくりを展開するとう意味からも、スキー場と柴崎牧場の活用について伺います。

①スキー場のノルディックコースと柴崎牧場の牧草地及び周辺の農免道路を練習場とし、柴崎牧場の宿泊施設や町内の宿泊施設を利用する合宿を各大学及び高校、実業団等の強化合宿を積極的に誘致してはどうか。

②柴崎牧場の活用で、町民憩いの場としての菜園や一坪農園としての貸し出し、手軽なハイキングコース等の設置により、町内外の人々の気軽な遊び場としての性格を持たせ、活用を推進する。

③各種大会を積極的に誘致することによって、町の活性化につなげてはどうか。

私が提案した事項については、すべて既存の状態での利用を前提としています。金ではなく知恵を使った施策によって町の財政も圧迫することがないと考えますが、町長の考えを伺います。

提言を参考にする

亀田町長

①他町村の総合運動公園等と比較した場合、雨天時の対応等で多少劣る部分があるかと思いますが、既存の施設の利用とあわせて、自然を生かしたクロスカントリートレーニングができるなど、当町の施設にもメリットがあると考えています。

議員ご指摘のとおり、全国的な強豪チームと合同でトレーニングを行うことにより、技術の向上やパワーアップなどの効果はもちろん、町への経済効果も大いに期待で

きるものと考えております。まかど温泉スキー場並びに柴崎牧場の施設に関しては、今後ともスキーを含めた各種スポーツ団体の合宿等に活用していただくよう、大学、企業等の合宿誘致に努力したいと考えております。

②柴崎観光牧場を他の用途に転用して、観光振興等への活用を図っていかなければならぬものという考えから、現在検討しているところであり、牧場を菜園や一坪農園としての貸し出しや、柴崎地区観光レクリエーション施設を一体的にとらえた手軽なハイキングコースの設定等も一つの活用方法であると考えております。

今後は、計画を策定していく上で最も大切なことは、議員ご指摘のように、創意と工夫、そして知恵を出し合うということであると思っておりますので、ご提言を

参考に、鋭意努力してまいりたいと考えております。

③大会運営に当たったの課題としては、まず1つ目はボランティアで協力をしていたいただいている大会役員や運営役員に多大なご労苦をおかけしているという点であります。2つ目には、県内では、シーズン中、各地域でスキー大会の日程が過

密となつていているということもありません。新たに大会を誘致するということは、限られた期間の中で大変困難な状態ではないかと思っております。今後はこれまで開催している大会により多くの選手に参加していただくために、大会内容をさらに充実していく必要があるのではないかと考えております。



今夏に行われた合同合宿の様子（東奥日報社提供）

「野辺地防雪原林駅」 に改名しては？



江渡 正樹 議員

駅中心の 観光事業を提案

江渡議員

東北本線は明治24年に全線開通しましたが、吹雪、雪だまりによりしばしば運行障害の元となり、明治26年の春、菖蒲町出身で日本初の林学博士である本多静六氏の進言により植林し、昭和35年10月14日、第88回鉄道記念日に、鉄道林発祥の地として鉄道記念物第14号に「野辺地防雪原林」として指定されました。本年菖蒲町は、久喜市と合併となり、野辺地祇園まつり最終日の山車の出発前に、袴を着用して田中久喜市長とともに中山旧町長は友好協会会長としてご挨拶されました。

田中久喜市長は、本年3月、久喜市と菖蒲町、栗橋町、鷲宮町が合併し、新たな久喜市が誕生し、菖蒲町と友好都市であった縁で野辺地町へ参りました。野辺地町には久喜市にない

ものがたくさんあります。これからも末永く、深く交流したいとお話しされました。このように、友好が盛んになっていくのも野辺地防雪原林があるからです。

しかしながら、野辺地駅構内にありながら、線路で遮断され、町民から見ると最も身近にありながら、別世界の記念物でしかありません。そこで、跨線歩道橋を設置し、町民も気楽に利用できる身近な記念物とするともに、「夏季には列車待ち合わせは森林浴の駅」と銘打った新駅名「野辺地防雪原林駅」と改名し、新たな町のシンボルとして観光事業に生かされてはと思っています。

また、移管以後の駅舎の活用ですが、もし空き室がある時は、ミニ鉄道展示館として、また操車場跡地も移管されたなら、現在野辺地小学校へ展示している蒸気機関車C11を移

動し、鉄道公園を作られてはと思うが、町長の考えを伺います。

各提案を真摯 に受けとめる

亀田町長

1つ目の駅名の改名については、駅名というものは、利用者から愛され、親しまれ、呼びやすいものが最良ではないかと考えていますが、現在の「野辺地駅」という呼び名は、町民にとっては長年慣れ親しんだ愛着のある名称ではないかと思っています。もし、駅名の改名に対する運動の盛り上がりや機運の高まり、多くの利用者の賛同が得られたと判断した時に、町としても検討しなければならぬと思います。現時点では、そのような動きもありませんので、今後の参考に資するということでご理解を賜りたいと思います。

2つ目の跨線歩道橋の設置については、現

在防雪林を見学するには、駅正面から右手に大きく迂回し、かなり遠回りをしなければならず、見学者の方々には大変、不便をおかけしています。何とか、現在の跨線橋を増設、延長して防雪林へ直接行くことができないか、私もこの実現に賛同する者の一人ですので、今後、県と協議していきたいと考えてい

ます。

3点目のミニ鉄道展示館については、県当局の説明によると、今後は車両の保守点検用の車庫と一体として使用していく方針が示されていますので、鉄道公園としての活用は困難です。したがって、蒸気機関車C11の移動も当面、非常に厳しい状況ですので、ご理解をお願いします。



現在の野辺地防雪原林

委員会報告

総務
常任委員会

8月6日

総務課

「行在所改修事業の概要」について説明を受けました。

委員から

「今回の改修工事が完了すると、全体の予定のどのくらいの割合か。」という質問に対し

総務課長から

「概ね、7割ほどが終了予定で、残りは床、畳、天井と電気器具等です。」と回答がありました。

委員から

「予算は今後どのくらい見込んでいるのか。」という質問に対し

総務課長から

「来年度は、5〜6百万円と思います。」と回答がありました。

管財課

「4月から7月までの入札結果」、「建設工事予定価格の事後公表試行に関する規則、要綱の制定」について説明を受けました。

税務課

「平成21年度町税等の収納状況」について説明を受けました。

委員から

「学校給食費の未回収は、税と違って回収が面倒だと思うが、どのくらいの金額なのか。」という質問に対し

税務課長から

「未回収は、2千180万円ほどです。」と回答がありました。

企画財政課

「平成21年度一般会計決算の概要」について説明を受けました。

委員から

「旧安定所跡地の売却は今どのようになっているのか。」という質問に対し

副町長から

「早めに金額を決定し、インターネットで公募します。」と回答がありました。

委員から

「3、4箇所区画して売却してはどうか。」という質問に対し

副町長から

「現段階では、一括で買っていたきたいと考えています。売買金額の設定を含め総合的に検討します。」と回答がありました。

委員から

「保育所運営費が20年度よりも5千万円ほど増えた理由はなぜか。」という質問に対し

企画財政課長から

「民間移譲によって保育所運営費が増えたもので、町立保育所費はゼロになりました。」と回答がありました。

健康福祉課

「父子家庭に対する児童扶養手当の支給」、「百歳以上の高齢者の所在確認」について説明を受けました。

委員から

「18歳の高卒まで対象となった場合、中卒で無職の場合は対象となるか。」という質問に対し

健康福祉課長から

「子どもの対象年齢は職業に関係なく、年齢で区分されるので、学歴等は問いません。」と回答がありました。

健康増進センター

「平成22年度特定健診及びがん検診の申し込み状況」、「平成22年度自殺対策緊急強化事業」について説明を受けました。

委員から

「特定健診の対象者は、40歳以上で、病気が進行している段階と思うが、若い人たちへの対応は考えているのか。」という質問に対し

健康増進センター所長から

「特定健診は、生活習慣予防ということ、国保の被保険者40歳以上の方を対象に実施していますが、若い人には、現在対応していません。ただ、がん検診については、女性は20歳から子宮がん検診をやっていますが、男性に対応するのはなかなか難しいところですが、今後考えていきたいと思っています。」と回答がありました。

学校教育課

「備品・委託業務・工事の発注状況」、「社会科副読本の編集状況」、「野辺地中学校改築事業基本構想の検討状況」について説明を受けました。

委員から

「ヤゴがかなり高価なようで、マニアが狙って来ることもあると思います。保護する看板もいいですが、罰則等の看板を設置したほうが良いと思います。」と要望がありました。

社会教育・スポーツ課

「馬門公民館改修工事の発注状況」、「ハッチョウトンボ生息域の保護」について説明を受けました。

委員から

「生息域が冬期間はスキー場になるが、スキー場の利用に影響はないか。」という質問に対し

社会教育・スポーツ課長から

「冬期間は、幼虫なりヤゴで越冬すると思いますので、雪が積もれば、問題はないのですが、雪の少ない状態で圧雪車が入ると、土をかき回す状況になるので、スキークラブのスタッフも気をつけて対応しているということです。」と回答がありました。

委員から

「ヤゴがかなり高価なようで、マニアが狙って来ることもあると思います。保護する看板もいいですが、罰則等の看板を設置したほうが良いと思います。」と要望がありました。



ハッチョウトンボの保護が急務

建設産業 常任委員会

8月11日

水道課

「メーター定期交換工事」、「野辺地町水道管路近代化推進工事監理委託業務」、「浄水の毎日検査の委託」、「ハンデーターミナル（携帯型検針器）の導入」について説明を受けました。

委員から

「ハンデーターミナルのシステム変更にも多額の経費がかかると思うが、金額はいくらか。」という質問に対

水道課長から

「正確に見積りは取っていませんが、6百万円以上はかかるということだと思います。」と回答がありました。

委員から

「6百万円以上というのは、多額という見方もあるが、せっかく新たなシステムを導入するので、長い目で見て、町民の節水に対する意識の高揚や住民サービスの面から、この機会に変更を考えていただきたい。」という要望がありました。

委員から

「水道管路近代化推進工事の設計委託と監理委託を合わせて入札できないか。設計と監理の委託業務の指名業者はほとんど同じだと思うので、一括の方が効果が上がらないか。次回委員会までにその方向性を報告していただきたい。」という要望がありました。

産業観光振興課

「町有林造成事業では、町有林の下刈り」、「川目さけ・ますふ化場給排水施設整備事業」、「観光物産PRセンター展示ホール改修事業」、「日本最古の鉄道防雪林PR用看板設置計画」、「駅前街路樹イルミネーションライト装飾計画」について説明を受けました。



改修工事が進むPRセンター

委員から

「野辺地川漁協の事業内容や将来的なビジョン等は、どのようになっているのか。町からの補助等もあるのか。委員会に報告をしていただきたい。」という要望があり

産業観光振興課長から

「ご要望の件については、組合の考えや今後の事業計画等を確認して、今後の委員会で概要報告します。」と回答がありました。

委員長から

「我々委員も、報告は受けるが、実際に施設を見たことがない委員が、ほとんどだと思うので、参考に現地を視察してはどうか。」という提案がありました。

建設環境課

「野辺地都市計画道路の変更」、「建設工事の発注状況」について説明を受けました。

8月24日

委員会は、こかぶ生産農家の激励訪問を行いました。

訪問農家は、明前地区、有戸地区、有戸鳥井平地区、干草橋地区の4ヶ所で、各農家からは、今年の異常な高温による作柄への影響等について説明がありました。



作柄の説明を受ける委員

原子燃料サイクル 施設対策特別委員会

委員会は、8月24日に開催され、日本原燃株式会社から平田副社長ほか5名の出席をいただき、再処理工場等の現状について説明を受けました。

平田副社長から

「再処理工場、高レベル貯蔵管理施設等でのトラブル」、「報告漏れ、保安規定違反」、「ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、使用済燃料受入

貯蔵施設、MOX燃料工場、再処理工場の現状」について説明がありました。また、大枝技術部長から

「再処理工場等の状況」、「ガラス溶融炉の構造と原理」、「ガラス溶融炉の外観」、「Kモック試験での確認結果及び評価」、「ガラス溶融炉の運転方法の改善及び安定運転方策」、「海外返還廃棄物の受入れの概要」、「低レベル廃棄物受入れ・貯蔵施設建設予定地及び貯蔵施設の概要」について説明がありました。



再処理工場等の説明を受ける



あふれる笑顔と演技で町に元気を与えています

輝け!

のへじびど

第5回

— あすなるレディース —

あすなるレディースは、レクリエーションダンスを通して町内で活動する27名のサークルです。今回は代表を務める荒川麗子さんにお話を伺ってみました。

○設立のきっかけは？
あすなるレディースは、昭和52年のあすなる国体開催事に町内の有志100名で結成され集団演技等が行われました。

その終了後、会員の意志と当時の若山教育長のはからいで公民館教室として現在まで存続しています。

○現在の活動は？
国体終了後から現在まで週1回みんなで集まり身体を動かしています。しかしあれから30年ほど過ぎていきますので、「魅せる演技から健康維持の演技へと変わってきているかも？」10数年前から各地でよさこいソーランの各イベントに参加していますが、本来はレクリエーションダンス

の演技が基本です。

○練習はどこでしていますか？
毎週木曜日、中央公民館ホールで午後7時から8時30分まで練習しています。

○町民の皆さんに告知があれば？
現在27名で活動していますが、随時、会員を募集しています。

特に若い会員を募集していますので、興味のある方は、練習を見学に来てください。

若い会員が増えれば、よさこいソーランにも参加できますので、ぜひお願いします。

ちなみに、男性会員も大歓迎ですので、よろしかったら練習を見学に来てください。

○入会等に関するお問い合わせ先は？

代表 荒川 麗子
TEL 64-3492

この欄では毎回、スポーツ、芸術などの活動をしているクラブを紹介します。希望者は議会事務局までご連絡ください。

12月定例会の日程 (予定)

12月14日(火)
・町長が議案の提案理由を説明します。
・各委員会の委員長が活動の報告をします。

12月15日(水)
一般質問

・議員本人があらかじめ提示したテーマで質問し、それに町長ほか町執行部が答えます。

12月16日(木)
・定例会初日に説明された議案に対し、質疑・討論・採決が行われます。

編集後記

今月は議会だより133号をお届けします。本号は、9月定例会の審議内容を要約して編集しております。今年、夏の異常気象によるホタテや農作物への被害が出ています。

特に、ホタテの被害状況は甚大で、議会としても、養殖漁業者等への支援に乗り出している状況です。

いよいよ厳しい冬を迎えますが、健康に留意され、新しい年を迎えることを祈念し、編集後記といたします。(蛭名)

議会広報委員会

委員長	木明 和人
副委員長	古林 輝信
委員	倉岡健次郎
〃	四戸 弘志
〃	蛭名 猛
〃	野村 秀雄